

廃船処理で積立金

10年後の廃船ラッシュに見込む

吉岐の勝本町漁協が全国初めて

【吉岐】長崎県吉岐市の勝本町漁協（大久保照享組合長）は、漁船の廃船処理費を目的とした組合員による積み立てを来年1月から始める。19日の総代会で決めた。漁協が主体となった廃船処理費の積立金方式の導入は全国で初めて。大久保組合長は総代会翌日の20日、山田正彦農林水産副大臣（衆院・長崎3区）と懇談。山田副大臣は「廃船処理費の積み立ては本来良いこと。全国モデルになるよう頑張ってください」と応じ、廃船処理費の不足分の補助について検討していく姿勢を示したという。



大久保 照享 組合長

勝本町漁協の組合員は正・准合わせて842人。漁船隻数は572隻で、昭和時代に建造して船齢20年を超える漁船が430隻と全体の75%を占める。大久保組合長は「あと10年足らずで1500、200隻が必ず廃船となる。その際に前もって廃船処理費の準備が必要」とし、積み立て方式の導入を決めた。一般に廃船処理費はトン当たり10万円とされ、仮に4ト漁船の場合40万〜50万円程度

度、19ト漁船の場合200万円近くの費用がかかる。漁協が水揚金から大引きする形で各組合員から集金し、管理する。小型漁船の場合、今後10年間で12万円を積み立て、廃船費に充てることになる。大久保組合長は「当漁協は比較的后継者に恵まれているが、それでも60歳を過ぎた組合員が全体の半数以上に当たる45

密漁アワビ包囲網広が

青森の5卸4漁協、漁連と申し合

【青森】密漁アワビの流通を阻止する包囲網が広がっている。築地市場をはじめ、仙台市場などが取扱基準を定めたのに続き、青森県内の中央、地方卸売市場の5卸も締め出しに乗じた。青森市中央卸売市場と中央水産の5卸と北海道漁連、青森県漁連、岩手県漁連、宮城県漁協が生鮮アワビ流通適正化の促進に向け申し合わせた。5卸は同日、密漁アワビ市場取引防止へ取扱基準を制定。0年1月1日分からは、漁連分が発行団体が発行証明がないり扱わないめた。

密漁を許すな!

海の資源を守れ!

密漁を見たら、隠れも早く通報

密漁防止を訴える宮城県漁協のポスター

青森市中央卸売市場

キング混獲対策へ5案

【北米支庁 洋漁業局】

勝本町漁協組合員の年齢構成（平成20年度）

20歳未満	20～29	30～39	40～49	50～59	60歳以上	法人	合計
1	14	62	100	209	455	1	842

勝本町漁協組合員所有船のトン数別隻数（平成20年度）

動力船						無動力船	合計
0～1未満	1～3未満	3～5未満	5～10未満	10～20未満	20以上		
154	99	197	89	33	0	0	572

勝本町漁協組合員所有船の進水年別隻数（平成21年7月31日現在）

S44年以前	S45年～ S49年	S50年～ S54年	S55年～ S59年	S60年～ H1年	H2年～ H6年	H7年～ H11年	H12年～ H16年
0	6	84	140	173	72	41	21
H17年以降	不明	合計					
8	27	572					